

臨床報告

牛車腎気丸で原因不明外陰部痛が軽快するとともに排尿障害が改善した一例

沢井かおり^{ab} 松浦 恵子^a 今津 嘉宏^a
西村 甲^{ac} 渡辺 賢治^a

- a 慶應義塾大学医学部漢方医学センター, 東京, 〒160-8582 新宿区信濃町35番地
b 横浜市立市民病院産婦人科, 神奈川, 〒240-8555 横浜市保土ヶ谷区岡沢町56番地
c 鈴鹿医療科学大学鍼灸学部鍼灸学科, 三重, 〒501-0293 鈴鹿市岸岡町1000番地1

A Case of Vulvodynia with Dysuria Effectively Treated with Goshajinkigan

Kaori SAWAI^{ab} Keiko MATSUURA^a Yoshihiro IMAZU^a
Ko NISHIMURA^{ac} Kenji WATANABE^a

- a Center for Kampo Medicine, Keio University School of Medicine, 35 Sinanomachi, Shinjuku-ku, Tokyo 160-8582, Japan
b Yokohama Municipal Citizen's Hospital, 56 Okazawacho, Hodogaya-ku, Yokohama, Kanagawa 240-8555, Japan
c Suzuka University of Medical Science, 1000 Kishiokacho, Suzuka, Mie 501-0293, Japan

牛車腎気丸で原因不明外陰部痛が軽快するとともに排尿障害が改善した一例

沢井かおり^{ab} 松浦 恵子^a 今津 嘉宏^a
西村 甲^{ac} 渡辺 賢治^a

a 慶應義塾大学医学部漢方医学センター, 東京, 〒160-8582 新宿区信濃町35番地
b 横浜市立市民病院産婦人科, 神奈川, 〒240-8555 横浜市保土ヶ谷区岡沢町56番地
c 鈴鹿医療科学大学鍼灸学部鍼灸学科, 三重, 〒501-0293 鈴鹿市岸岡町1000番地1

A Case of Vulvodynia with Dysuria Effectively Treated with Goshajinkigan

Kaori SAWAI^{ab} Keiko MATSUURA^a Yoshihiro IMAZU^a
Ko NISHIMURA^{ac} Kenji WATANABE^a

a Center for Kampo Medicine, Keio University School of Medicine, 35 Sinanomachi, Shinjuku-ku, Tokyo 160-8582, Japan
b Yokohama Municipal Citizen's Hospital, 56 Okazawacho, Hodogaya-ku, Yokohama, Kanagawa 240-8555, Japan
c Suzuka University of Medical Science, 1000 Kishiokacho, Suzuka, Mie 501-0293, Japan

Abstract

It is difficult to treat vulvar pain of an unknown cause. We report a case of vulvodynia with dysuria treated effectively with goshajinkigan. The case was 92 years-old female who could not sleep well because of vulvar pain. She did not have inflammation of the vulva or vagina. Moreover, she was sometimes treated with urethral catheterization for urinary retention. Goshajinkigan was prescribed, and her pain was decreased so much, that she could sleep well. Furthermore, she was relieved of her urinary retention.

Key words: vulvodynia, dysuria, goshajinkigan

要旨

女性の外陰部痛は、炎症、外傷、腫瘍、加齢による萎縮乾燥などで生じるが、原因不明の場合はVulvodyniaと称され、しばしば難治性で、治療に難渋することがある。今回、牛車腎気丸で原因不明外陰部痛が軽快した症例を経験した。症例は92歳女性、2～3時間続く膣から尿道にかけての痛みが頻発し、夜間長時間眠れないため受診した。漢方医学的に、虚寒中間証、寒証で、瘀血、腎虚の所見が認められた。高齢で、腎虚があり、尿路系の症状があることから、牛車腎気丸を処方したところ、夜間に痛みで起きる日が少なくなり、日中の外陰部痛も、著明に軽快した。また、時々起こしていた尿閉も起こさなくなった。難治性の原因不明外陰部痛では、補腎剤も治療の重要な選択肢のひとつと思われる。さらに排尿障害も改善し、複数の障害が一剤にて改善されるという、西洋薬にはない漢方治療の有用性が示された。

キーワード: 外陰部痛、排尿障害、牛車腎気丸

緒言

女性の外陰部痛は、炎症、外傷、腫瘍、加齢による萎縮乾燥などで生じるが、原因不明のものも少なくない。治療としては、炎症に対する抗菌剤や消炎剤の外用・内服、外傷や腫瘍に対する外科的処置、加齢による萎縮乾燥に対する皮膚保護の外用薬やエストロゲン製剤の膣内投与・内服が行われる。しかし原因不明の場合はVulvodyniaと称され、局所塗布剤や抗うつ剤による治療が行われるが、しばしば

難治性で、治療に難渋することがある。異常所見がなく精神的なものと言われ、ドクターショッピングをする例も時折見受けられる。今回我々は、原因不明の外陰部痛に悩んでいた92歳女性に牛車腎気丸を投与することで、外陰部痛の軽快と同時に、尿閉を伴う排尿障害が改善した症例を経験したので報告する。

症例

症 例：92歳女性。

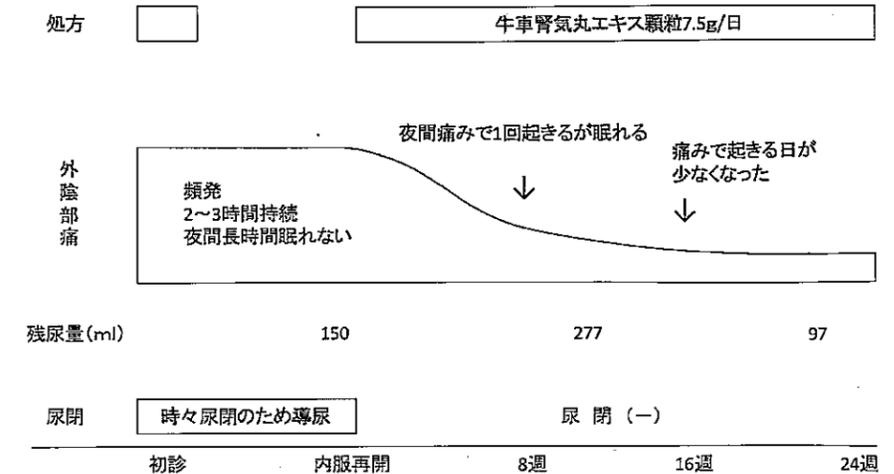


図 1

主 訴：外陰部痛。

既往歴：82歳で大腸癌に対し右半結腸切除術、89歳で脳梗塞、91歳で子宮脱・膀胱脱に対し陰閉鎖術の既往がある。また、高血圧、不整脈、尿漏れ・尿閉などの排尿障害を治療中であるとともに、軽度白内障がある。

現病歴：8年ほど前から膣の痛みがあった。細菌性膣炎は否定され、何度か萎縮性膣炎として局所のホルモン治療を受けたが、症状は一進一退だった。時々過換気症状を起こすこともあり、精神神経科を受診したものの、治療内容は不明であるが症状の改善はなく、治療は中断していた。今回受診の数カ月前より、2～3時間続く膣から尿道にかけての痛みが頻発し、夜間長時間眠れないという訴えで、約1年ぶりに横浜市立市民病院産婦人科外来を受診した。

身体所見と問診：身長143 cm、体重38 Kg、血圧160/87 mmHg、胸部に異常所見はないが、下腹部には大腸癌手術痕に伴う腹壁ヘルニアを認めた。顔色・皮膚は普通である。独歩不能で、外出には車椅子を要する。軽度難聴はあるが、補聴器なしで会話が可能である。食欲は良好である。大便秘結はない。尿漏れは頻回で、おむつを着用している。また、時々尿閉を起こし、近医泌尿器科で導尿している。睡眠は、痛みで起きることを除くと、寝つき・寝起きなどに問題はない。両下肢のしびれと冷えがあるが、立ちくらみはない。

漢方医学的所見：舌は正常大、淡紅、無苔で、歯痕はなく、舌下静脈怒張が軽度認められる。脈は浮沈中、実、緊である。腹力は中等度で、臍上臍傍の

動悸、左腹直筋の攣急、左臍傍圧痛、小腹不仁を認める。

経 過：本症例の外陰部痛は、数年前の初診時と同じ病態と考えられ、細菌性膣炎や萎縮性膣炎の治療は無効と思われた。そこで、本人及び息子に漢方薬による治療を提案したところ、積極的に希望したため、ツムラ牛車腎気丸エキス顆粒7.5 g/日毎食前を処方した。しかし、4週間内服した後、カンジダ性外陰炎を併発し、近医皮膚科で治療を受けている間約2カ月間、内服は自己中断していた。皮膚科治療後受診し、「内服中は尿の行儀が良かった」と、内服継続の希望があり、内服を再開した。内服再開7週後、夜間に1回痛みのため起きるが以前のように長時間眠れないことはなくなったと、症状は軽快傾向であった。内服再開16週後、夜間に痛みで起きる日が少なくなったと、さらに症状は軽快した。日中の外陰部痛も、消失はしていないが、痛みを自ら訴えることがなくなり、著明に軽快していた。また、時々尿閉を起こして近医泌尿器科で導尿していたため、尿管留置予定だったが、内服再開後は尿閉を起こさなくなり、残尿も減少し、尿管留置せずに経過をみる事ができた(図1)。

考察

膣痛や尿道口痛、尿道痛、会陰部痛などの外陰部痛は、炎症、外傷、腫瘍、加齢による萎縮乾燥(萎縮性膣炎)などで生じ、原因疾患の治療によって改善する。特に漢方薬が有用なのは、副作用や合併症のためホルモン治療ができない萎縮性膣炎の場合である。緩和なエストロゲン作用のある八味地黄丸な

どを用いたり、外陰の萎縮乾燥を血虚と考え、補血剤を用いた報告がある¹⁾²⁾。

一方原因不明の外陰部痛は Vulvodynia と称され、International Society for the Study of Vulvovaginal Disease (ISSVD) では、「視診による所見や明らかな神経学的異常のない、しばしば灼熱感のある疼痛と表現される外陰の不快感」と定義されている³⁾。治療は、局所塗布剤や抗うつ剤の内服、また心理的サポートも重要とされる⁴⁾が、治療に難渋する症例が多い。

このような原因不明の外陰部痛の漢方医学的病態として、瘀血や、気うつ・気逆といった気の異常、冷えが挙げられ、それらに対して駆瘀血剤や柴胡剤・理気剤、温補剤などが用いられる⁵⁾⁶⁾。

本症例は漢方医学的に、虚実中間証、寒証で、舌診・腹診上瘀血、腎虚の所見が認められた。高齢で、腎虚があり、尿路系の症状があることから、まず補腎剤を考慮した。主な補腎剤としては、六味丸や、それに桂枝・附子を加えた八味地黄丸、さらに牛膝・車前子を加えた牛車腎気丸がある。本症例では、両下肢のしびれと冷えがあり、尿路系の症状が強いことから、八味地黄丸よりも附子の量が多く、利尿作用のある牛膝・車前子の加わった牛車腎気丸を選択した。

牛車腎気丸の出典は、「巖氏濟生方」水腫門の加味腎氣圓で、「治腎虚腰重脚腫小便不利」⁷⁾とある。ここに“疼痛”は挙げられていないが、本症例では、牛車腎気丸が外陰部痛に有効であった。このことについて、まず、牛車腎気丸の減方である八味丸について考察する。

八味丸は、金匱要略に「治脚氣上入少腹不仁」⁸⁾とある。ここにいう「脚氣」とは、「下肢の気のめぐりが悪くなり、しびれ、麻痺、むくみ、疼痛などを生じ、脚力の弱くなる状態をいう」⁹⁾とされ、下肢の疼痛を含む。従って、脚気が脚から少腹に上り入る過程で、その一症状としての疼痛が外陰部にも生じると考えると、八味丸が外陰部痛に有効であることが理解できる。

牛車腎気丸は、八味丸に牛膝と車前子を加えた処方、「此方ハ八味丸ノ症ニシテ腰重、脚腫、或ハ痿弱スル者ヲ治ス」¹⁰⁾、「八味地黄丸適応者よりさらに排尿障害、歩行障害、腰痛を伴う場合には牛車腎気丸が適している」¹¹⁾とされている。よって牛車腎

気丸は、八味丸と同様に、下半身の疼痛性疾患に有効であるといえる。

下半身の疼痛の一例として、牛車腎気丸は腰下肢痛に有効であるという報告は多い¹²⁾¹³⁾¹⁴⁾。また、末梢神経障害における牛車腎気丸の鎮痛作用機序も解明されてきており、ダイノルフィンを介した下行性抑制系の活性化¹⁵⁾¹⁶⁾と、一酸化窒素産生促進による末梢侵害受容器への作用および血行改善作用¹⁵⁾¹⁷⁾とされている。

しかし Vulvodynia は、その定義に神経学的異常のないことが含まれており、本症例で牛車腎気丸が有効であった機序は未だ明らかではない。

一方、本症例では排尿障害をあくまで処方選択の目標の一つとして捉えていたが、牛車腎気丸内服により、時々導尿を必要とした尿閉が消失した。

牛車腎気丸が、排尿障害に有効であるという報告は多い¹⁸⁾¹⁹⁾。排尿障害のうち、排尿困難感などの排出障害には有効でない²⁰⁾ともいわれるが、尿意切迫感や頻尿といった蓄尿障害に対しては、多症例での症例集積研究²⁰⁾や、 α 遮断薬併用のクロスオーバー比較試験でも、有効性が認められている²¹⁾。

排尿障害に対する牛車腎気丸の作用は、膀胱収縮抑制と最大膀胱容量増加による。膀胱収縮抑制の機序に関しては、抗コリン作用とする報告²²⁾²³⁾と、 κ オピオイド受容体を介した下行性抑制系の活性化によるとする報告¹⁹⁾があり、さらなる検討が待たれる。

結論

原因不明の外陰部痛に、補腎剤を用いた報告は少ないが、腎虚を目標に牛車腎気丸で軽快する症例があり、難治性の原因不明外陰部痛では、補腎剤も治療の重要な選択肢のひとつと思われる。また本症例では排尿障害も改善し、一種類の漢方薬で、異なる複数の症状が改善されるという、西洋薬にはない漢方治療の有用性が示された。

附記 本稿の要旨は、第60回日本東洋医学会総会(東京、2009)において発表した。

文献

- 1) 和田久恵, 西口富三, 金山尚裕: 外陰部違和感に対し八味地黄丸が奏功した2症例, 産婦人科漢方研究のあゆみ, 25, 91-94, 2008
- 2) 木下哲郎, 矢久保修嗣, 木下優子, 安藝竜彦, 種倉直道, 横瀬友好, 小泉久仁弥: 老人性外陰痛, 外陰違和

感に対して温清飲・香蘇散の投与が有効であった1例, 痛みと漢方, 18, 99-103, 2008

- 3) Hope K.Haefner, Michael E.Collins, Gordon D.Davis, Libby Edward, David C.Foster, Elizabeth (Dee) Heaton Hartmann, Raymond H.Kaufman, Peter J.Lynch, Lynette J. Margesson, Micheline Moyal-Barracco, Claudia K.Piper, Barbara D.Reed, Elizabeth G.Stewart, Edward J.Wilkinson, : The Vulvodynia Guideline, J Low Genit Tract Dis. 9, 40-51, 2005
- 4) 藤野敏則, 若松美貴代, 三浦陽子, 石走知子, 井上尚美, 下敷須須美子: 外陰部の搔痒・疼痛, 産婦人科治療, 94, 211-215, 2007
- 5) 清水正彦, 原敬二郎, 杉山徹: 更年期障害にみられた難治性外陰部自発痛に対する桂枝茯苓丸の臨床効果と病態に関する東洋医学的一考察, 産婦人科漢方研究のあゆみ, 21, 108-110, 2004
- 6) 前田正博, 松沢吉保, 金子高徳, 正木泰子, 井上由実, 林田道子, 齊藤裕, 肥川義雄, 安田勝久: 加味逍遙散が有効であった陰部痛の2症例, 痛みと漢方, 8, 44-46, 1998
- 7) 巖用和: 巖氏濟生方 巖用和撰, 小曾戸洋・真柳誠編, 和刻漢籍医書集成 第四輯, 62-63, エンタプライズ株式会社, 東京, 1988
- 8) 大塚敬節: 金匱要略講話, 127-129, 創元社, 大阪, 1979
- 9) 藤平健: 類聚方広義解説, 195-201, 創元社, 大阪, 2005
- 10) 長谷川弥人: 勿誤藥室「方函」「口訣」釈義, 491-492, 創元社, 大阪, 2005
- 11) 大塚敬節, 矢数道明, 清水藤太郎: 漢方診療医典第6版, 213-215, 南山堂, 東京, 2007
- 12) 大萱稔: 特集各科における牛車腎気丸の応用 腰痛と牛車腎気丸, 漢方と最新治療, 7(4), 327-331, 1999
- 13) 山上裕章, 橋爪圭司, 岩阪友裕, 八反丸善文, 古家仁: 牛車腎気丸の疾患別効果についての検討, 痛みと漢方,

8, 9-11, 1998

- 14) 関根利佳, 渡辺廣昭, 御村光子, 井上光, 飛世史則, 並木昭義: 腰痛由来の腰下肢痛に対する牛車腎気丸の効果-ビタミンB₁誘導体製剤との比較検討-, 痛みと漢方, 13, 84-87, 2003
- 15) 後藤和裕: 牛車腎気丸の抗侵害受容作用機序-ダイノルフィンと一酸化窒素の関与-, ペインクリニック, 19(8), 1179-1185, 1998
- 16) Yasuyuki Suzuki, Kazuhiro Goto, Atsushi Ishige, Yasuhiro Komatsu and Junzo Kamei: Antinociceptive Effect of Goshajinki-gan, a Kampo Medicine, in Streptozocin-Induced Diabetic Mice, Jpn.J.Pharmacol. 79, 169-175, 1999
- 17) Yasuyuki Suzuki, Kazuhiro Goto, Atsushi Ishige, Yasuhiro Komatsu and Junzo Kamei: Antinociceptive Mechanism of Goshajinki-gan in Streptozocin-Induced Diabetic Animals: Role of Nitric Oxide in the Periphery, Jpn.J.Pharmacol. 79, 387-391, 1999
- 18) 渡部明彦, 明石拓也, 藤内靖喜, 水野一郎, 永川修, 布施秀樹: 頻尿に対する牛車腎気丸の効果, 泌尿紀要, 52, 197-201, 2006
- 19) 後藤章暢, 白川利朗, 日向信之, 和田義孝, 守殿貞夫: 漢方薬の基礎研究と臨床応用-頻尿に対する牛車腎気丸の効果-, 泌尿, 58(5), 301-306, 2004
- 20) 吉田実: 腎虚と下部尿路症状-牛車腎気丸を投与した109例の検討-, 日東医誌, 57(5), 633-637, 2006
- 21) 石塚修, 山西友典, 後藤百万, 舛森直哉, 菅谷公男, 吉田正貴, 西沢理: 漢方製剤の臨床効果-牛車腎気丸を中心として-, Urology View, 7(1), 81-84, 2009
- 22) 鈴木孝憲, 黒川公平, 鈴木和浩, 東洋臣, 大間千賀子, 今井強一, 山中英寿: イヌ生体位膀胱機能に対する牛車腎気丸の作用, 泌尿紀要, 42, 951-955, 1996
- 23) 鈴木孝憲, 東洋臣, 斎藤浩樹, 黒川公平, 大間千賀子, 山中英寿: 牛車腎気丸のイヌ膀胱収縮に対する作用機序の検討, 泌尿紀要, 43, 271-274, 1997